

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会  
教員養成のフラッグシップ大学検討ワーキンググループ（第 6 回）の主な意見

- 中間まとめ（案）について、全体的に Society5.0 の社会を見据えた教員養成であることを打ち出すべきではないか。
- 現在抱えている教育課題に対応するようなプル型の課題に加えて、「学習指導要領改定の今後の方向性を検討・提案する」といったようなプッシュ型の役割があっても良いのではないか。
- フラッグシップ大学の要件について、Society5.0 を見据えたこれからの未来の教育であることを踏まえれば、これまでの大学の実績の評価は当然重要であるが、今後の計画についても評価すべきではないか。
- 本年 6 月に取りまとめられた、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」についても、しっかりと受けとめた記載にすべきではないか。
- 先端技術を使うことと同時に、本来の教員養成の目的を明確にできるということがフラッグシップ大学には求められるのではないか。
- 平成 29 年の有識者会議報告書を踏まえた上で、さらに特色のあるとがった取組について確認することになるのではないか。
- 国立大学については、第 4 期中期目標期間に向けた今後の改革の方向性と論点が提示されている国立大学改革方針で記された「教員養成系大学・学部的高度化と、他大学との連携・集約」との関わりをどう考えるか。
- 今後、どの大学についても Society5.0 時代を見据えた教員養成ということを考えていく必要があるが、そのときにフラッグシップ大学にならなければできない役割や目的というものを明確にしておく必要があるのではないか。
- 現行の教員養成大学・学部で行うには難しい部分を、フラッグシップ大学が先導してやってみせるのだという役割を明確に打ち出すべきではないか。